

研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム (BRIDGE)  
審査・評価委員会 新 SBIR 制度加速事業分科会概要 (令和5年度第2回)

- 日 時：令和5年5月10日 (水) 16:00~17:00
- 場 所：内閣府 上山議員室、WEB
- 議 事：
  - (1) 令和4年度新 SBIR 制度加速事業の評価結果について
  - (2) 令和5年度研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム (BRIDGE) 新 SBIR 制度加速事業実施方針案について
  - (3) SBIR フェーズ3基金事業について
  - (4) その他
- PRISM 審査・評価委員会 委員 (敬称略)
  - <新 SBIR 制度加速事業分科会>
  - ◎上山 隆大 (総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員)
  - 東出 浩教 (早稲田大学ビジネススクール (商学研究科) 教授)
  - 琴坂 将広 (慶應義塾大学総合政策学部准教授)
  - 永田 暁彦 (リアルテックホールディングス株式会社 代表取締役、株式会社ユーグレナ取締役代表執行役員 CEO)

※◎は座長、全員出席

【概要】

令和4年度新 SBIR 制度加速事業の評価結果、令和5年度新 SBIR 制度加速事業の実施方針案、SBIR フェーズ3基金事業について事務局から説明。会議終了後、事務局が調整のうえ、座長一任で実施方針案を決定。委員の主なコメントは以下のとおり。

<評価結果、実施方針案>

- どこかで研究者と経営者がマッチングしないと社会実装までたどり着くことは難しいと思う。また、マッチングさせる経営者人材のプールも重要。研究者の方の評価もプログラムマネージャーなどに見てもらえれば良いと思う。
- 世界的なスタートアップの成長分野の大きな潮流に乗ることが重要だが、その精度を上げる方策が何かないかと思う。
- アメリカのベンチャーキャピタルと議論しても同じ問題を指摘されるが、ディープテック系は難しく、また人材プールも一挙に拡大することはなく、1つ1つやっていくしかない。

<SBIR フェーズ3基金事業>

- 各省がリードカスタマーとなり、自身の変革を進める一環として、リスクを取ってスタートアップの育成を行うと理解。
- 各省のエフォートや資金がグローバルに向くようにマインドセットを作ったうえで進めた方が良いと思う。
- 例えば、ロードマップ等により、調達の見通しが見えていると、民間もフェーズ3への資金を出しやすくなり、目指すべきやり方の1つかと思う。

以上